おごせ教育 Pick up

令和五年度 越生町の教育

越生町では、知・徳・体の調和（生きる力）のとれた教育を実践することを目標にしています。令和五年度、重点を置いて取り組むことを紹介します。

1　確かな学力の育成（知）

越生町では、二学期制や土曜授業日の特色を生かし、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業を推進していきます。

(1)ＩＣＴを活用した授業展開

児童生徒が自分の課題に合わせて学習できるシステム等、ＩＣＴ機器を効果的に活用した多様な授業を展開し、学習内容の定着と学習意欲の向上を図っていきます。

(2)外国語教育の更なる充実

英検等、具体的な目標をもって意欲的に学習に取り組めるよう受験料の助成を行います。また、ＡＬＴ（外国人英語助手）を各校常駐配置したり、オンラインで海外の学校との交流をしたりして、更なる外国語教育の充実を図ります。

オンライン交流の様子

(3)少人数学級編制の継続

越生町では、町負担の教員を配置し、独自の少人数学級編制を行っております。ティームティーチングや少人数指導による、きめ細やかな指導を行っていきます。

(4)授業力向上に向けた取組

令和五年度に越生小学校では西部地区全域の小学校の教員を招いて授業研究会を行います。越生町小・中三校が協力、連携し、授業改善に向けて研究を重ねることで、小中三校の授業力の向上を図ります。

2　豊かな心の育成（徳）

不登校ゼロ、いじめ解消１００％を目指して取り組んでいきます。また、特別の教科道徳を中心とし、各教科領域において道徳教育・人権教育を展開していきます。

(1)さわやか相談室・適応指導教室の充実

指導体制を充実します。適応指導教室やパソコンを使った学習も進めていきます。

(2)体験活動の充実

豊かな心を育成するため、体験活動を重視します。梅もぎ体験や光燿祭など地域資源を生かした、体験活動の充実を図っていきます。

3　健やかな体の育成（体）

長引くコロナ禍において、全国的に児童生徒の体力の低下が懸念されております。越生町では、全ての活動の源となる「体力」の向上に向けて取り組んでいきます。

(1)学校体育活動の推進

町の体力向上推進委員会を中心に、小中連携して授業改善や、体力向上に向けた取り組みを行っていきます。

(2)生活習慣の充実

「家庭生活・家庭学習のすすめ」リーフレットを活用し、生活習慣の充実を図ります。

(3)望ましい食習慣の確立

給食甲子園優勝・準優勝の実績を生かし、食育の推進を図ります。

越生小・梅園小合同のドッチビー大会が行われました

この他にも、越生小学校と梅園小学校との合同行事や合同授業の取組を行い、お互いのよさを生かした小小連携を一層推進し、小中学校九年間の一貫した教育を推進します。

また、学校運営協議会（コミュニティスクール）を充実させ、学校・家庭・地域が一体となった様々な取り組みを実践していきます。

「子育てと教育のまち　越生」を目指して、令和五年度もご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

越生浪漫 No.170

「越生の今市」の話

絹織物の品質向上のために組織された「武蔵織物同業組合」の出張所が設置されました。殖産興業の奨励で絹糸の生産、絹織物の売買取引が加速した越生の市は、周辺地域の繭・生絹を集積・流通・管理する近郷を含めた経済の中枢に成長しました。同時期に発行された『埼玉県営業便覧』（埼玉県各町の地誌・名勝・歴史・営業情報等をまとめたガイドブック）によると、市では生絹、繭糸米穀等の売買が盛んで、主な物産は生絹（越生絹）のほか、太織縞絹、材木、渋団扇等と書かれています。法恩寺から役場周辺の道路沿いには184軒もの家屋や商店等が立ち並んでいました。当時の市日の写真を見ると、町中（上町ー新宿町間）が人や売場で埋め尽くされて熱気を帯びた越生の様相を想像できます。大正期に入っても交通整理が出るほど町の中が混雑したそうですが、昭和12年の支那事変後に途絶えてしまいました（『おごせの昔話と伝説』）。近年、国登録有形文化財に登録された岡野家・金子家・星野家住宅は、市で財をなした商人の店舗や住居として建てられたもので、隆盛を誇った「越生の今市」を今に伝える歴史的建造物です。

江戸時代の市

今の大字越生・越生東にあたる場所は江戸時代には今市村と呼ばれ、街道沿いに発展した市街地は「古へより市場となせし所」（『新編武蔵風土記稿』）でした。越生の今市とも言われた市の起源は定かではありませんが、古くは2・12・22日、6・16・26日に開かれ、江戸時代後期の延宝3年（1675）に2・7がつく日（二七の市という）に改められました。文化13年（1816）頃には、上町で12と27日、仲町で7と22日、本町で2と17日という場割も定められていました。

明治時代以降の市

明治33年（1900）、町に「株式会社越生生絹市場」が設立、3年後には

明治 42 年の市日の様子　※上町から新宿町方面を望む

越生町略図（『埼玉県営業便覧』より）　明治三十五（一九〇二）年

『埼玉県営業便覧』の一部（『越生の歴史　近代史料＜古文書・記録＞』より）

生絹市場

入間郡越生町近郊ノ農家副業トシテ生絹ヲ紡織シ二、七ノ日同町市場二來リテ之ヲ鬻ク婦女老幼去來幾百亦盛ナリト謂フヘシ

（大正１年『埼玉縣寫真帖』より）